

□文献紹介□

アトピー性皮膚炎患者の黄色ブドウ球菌コロナイゼーションに対する治療は、 疾患重症度を軽減する

黄色ブドウ球菌感染はアトピー性皮膚炎(atopic dermatitis: AD)増悪の重要因子であるが、その治療に関しては確立されたものがなく、悩みの種である。本研究では、sodium hypochlorite (bleach) bath とムピロシンの鼻腔内塗布による複合治療を、細菌感染を伴った小児の AD 患者に行い、その効果を検証した。

1 施設での二重盲検(被験者は匂いにより Bleach を識別できる可能性あり)プラセボ対照無作為化臨床試験を行った。生後 6 か月～17 歳の中等症～重症 AD 患者で皮膚に感染徴候のある患者 31 人全例に対し、セファレキシンの試験前投与を 2 週間行い、その後 15 人の治療群と 16 人のプラセボ群に振り分けた。治療群には 0.005% の bleach bath への入浴(週 2 回)とムピロシン軟膏の鼻腔内塗布(月に 3 クール)の治療を行い、プラセボ群には water bath への入浴とペトラタム軟膏の鼻腔内塗布を 3 か月間行った。観察期間中、有害事象による登録者の離脱はなかった。

Eczema Area and Severity Index score (EASI) と

body surface area により治療前後の重症度評価を行ったところ、治療群ではプラセボ群に比べ著明な皮疹の改善がみられた。EASI により部位別に重症度の推移を観察したところ、治療群は頭頸部では重症度に改善がみられなかったのに対し、入浴時 bath の水が浸る体幹・四肢は治療により明らかな改善が観察された。治療観察期間中、黄色ブドウ球菌耐性株の獲得率は低く抑えられた。

Bleach bath とムピロシンの鼻腔内塗布による複合治療は、細菌二次感染を伴った AD の重症度改善に有効である。

Huang JT, et al: Treatment of *Staphylococcus aureus* colonization in atopic dermatitis decreases disease severity. *Pediatrics* 123: e808-814, 2009

(慶應義塾大学 川崎 洋)